

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



広島県熊野町
が応援するふるさと名物

筆の都 熊野町

～180年の伝統と筆文字文化の継承。
熊野筆と熊野筆の技術を応用した商品
熊野筆に関する産業観光



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

平成28年8月24日

広島県熊野町

地域の
プロフィール

熊野筆受け継がれる伝統的工芸品

熊野化粧筆伝統技術を応用した世界が認める化粧筆

熊野町は、広島県の西部に位置し、四方を500メートル級の山々に囲まれた高原盆地で、広島市、呉市、東広島市に隣接しています。

江戸時代末期頃から始まった筆の産地として知られており、昭和20年代頃からは、書筆づくりの技術を応用して画筆や化粧筆が製造され、書筆とともに、全国一の生産量を占めています。

昭和初期に始まった「筆まつり」や「全国書画展覧会」は、町の一大イベントとして地域に根付いており、また平成6年には、全国で唯一の筆の博物館がオープンするなど、筆を活用した地域振興が図られています。

現在でも、人口の1割にあたる約2,500人が筆の仕事に携わっているなど、町全体で熊野筆の筆づくりの伝統と技術が継承されています。

熊野町



1

主な地域資源

熊野筆

筆づくりの工程はおよそ70以上もあり、一部で機械化も進んでいますが、毛の種類、長短、気温、湿度など様々な性質や環境の変化などに機械では対応できないことが多く、職人の経験と高い技術、そして職人の手の感触が頼りになるため、ほとんどが手づくりされています。

学校制度ができ、書道教育が盛んになった明治以降、生産工程の分業化が進み、選毛から銘彫刻までそれぞれの工程の職人が生まれました。

そのため熊野町では、人口の約1割(2,500人)が筆に関する仕事に携わっているとされ、他の筆産地に比べ、もっとも多くの伝統工芸士を輩出しています。

現在、熊野町では、筆に関する事業所は100社程度と言われており、書筆・化粧筆・画筆の国内生産量は日本一とも言われています。



選毛・毛組の工程



逆毛取りの工程



銘彫刻

2

ふるさと名物

熊野筆と熊野筆の技術を応用した商品

伝統工芸士が手づくりした高級書筆や、筆づくりの技術を応用して作られ、ハリウッド女優や世界的なメイクアップアーティスト達が愛用する化粧筆、日本屈指のアニメーターや絵師達に愛用される画筆などさまざまな熊野筆を作りあげてきました。

昭和50年には、中国地方で最初の伝統的工芸品として指定を受け、平成16年には、熊野筆事業協同組合が「クマノフデ、クマノヒツ、クマノ」の称呼となる全ての文字が対象となる団体商標を取得しました。

平成18年には熊野筆・熊野化粧筆・画筆の統一ブランドマークも開発され、熊野で作られた製品である証として、広くPRされています。

筆づくりの技術を応用し、化粧の際に最も重要な肌触り、ふくみ、のりを、化学繊維で再現した、高い品質の化粧筆。赤ちゃんの生まれたままの髪の毛を使う胎毛筆など、新たなニーズに対応しつつ、あらゆる製品を生産・供給しています。



書筆



化粧筆



画筆



熊野筆・熊野化粧筆・画筆の統一ブランドマーク。黒が書筆、赤が化粧筆、黄色が画筆を表しています。

2

ふるさと名物

熊野筆に関する産業観光

熊野町では、熊野筆に関する様々な体験ができる施設が多数存在し、代表的な施設として筆の里工房があります。

筆の里工房は、世界で唯一の筆の博物館であり、筆から生まれる美術、工芸、遊びなど、筆の広がりを見て触れて、体験ができる博物館です。

館内は、全長3.7メートルの世界一の大筆を中心に、筆の歴史を日本文化の変遷をたどりながら紹介する常設展示や、伝統工芸士の筆づくりの実演、筆を使った様々な体験、年間数回の全国有名書画家の特別企画展などで来館された方には、「筆の広がり」を存分に楽しんでいただけます。

また、筆づくり工程のうち「上毛巻き」と「仕上げ」の工程を、伝統工芸士の手ほどきを受けながら体験できる筆づくり体験や、町内の業者の工場にて化粧筆の製造体験など、1年を通して様々な体験ができます。



筆の里工房



筆づくり体験
伝統工芸士の手ほどき



世界一の大筆

1

独自の支援策

世界で唯一 筆の博物館「筆の里工房」

熊野町における体験観光の代表的な施設で、毎年、7～8万人の来館者があり、多くの体験学習や社会見学も受け入れています。

筆まつり

毎年、秋分の日に、日本三筆の1人とされる嵯峨天皇をしのび、あわせて筆づくりの先人たちの功労に感謝する筆まつりが行われます。

役目を終えた筆を供養する「筆供養」、特別価格で販売される「筆の市」、広島県知事賞・熊野町長賞などが表彰される「競書大会」、5m×6mの特殊布へ揮毫する熊野高校書道部による「パフォーマンス書道」、約20畳分の特殊布へ巨大な筆で有名書家が揮毫する「大作席書」などが行われ、5万人以上が訪れる盛大なお祭りです。

全国書画展覧会

毎年11月に開催され、47都道府県2,000校以上の小・中学校及び800団体以上の書画塾合わせて、約16万点もの作品応募があり、全国で最大級の応募を誇る書画コンクールです。

小学校低学年での書道科の実施

熊野町では、平成22年から小学校低学年の授業に書道科を取り入れ、「筆」と「書」の伝統文化に親しませ、児童の落ち着き、集中力などの資質を伸ばし、心の豊かさを育む取組を実施しています。

2 独自の支援策

筆職人と筆の未来を担う若い世代の交流会

2年に1度、県内外の書道及び芸術部門のある大学の学生らを招き、書筆・化粧筆・画筆の製造工程や原材料について学習してもらい、「作る人と使う人」の相互理解、大学を超えた学生同士のつながり、筆致が日本の書・画・美術・工芸の美しさを担い、美意識の創造に大きく貢献していることを伝えるため、「筆職人と筆の未来を担う若い世代の交流研修会」を実施しています。

筆の日を定める条例の制定

筆の都熊野町として、筆産業の振興と筆づくり技術の継承と発展に尽力した先人に感謝するとともに、筆の歴史と文化の価値を改めて認識し、町、事業者及び町民が連携して、その魅力を全国に発信することにより、筆文化の振興と筆産業の発展を図るため、春分の日を筆の日と決めました。

また、春分の日を含む前後3日間を筆の日週間と定め、町内で様々な筆に関するイベントが開催されます。

筆の日週間中は、町内の筆関連事業者や町民自らが、パソコンやワープロを使わず、文房四宝（筆・墨・硯・紙）や絵筆・化粧筆を手に手紙や芸術、メイクアートなどの創作活動に参加します。

筆づくりの伝承と人材育成

筆文化の継承のため、熊野筆事業協同組合への補助事業として、伝統工芸士による研修会を実施し、新たな職人を育成するため、マイスタースクールを開催しています。

広島ブランドショップTAU

広島県が東京銀座に展開している、広島ブランドショップTAUにて、(一財)筆の里振興事業団への事業補助を通し、熊野筆セレクトショップを運営し、東京での熊野町及び熊野筆の情報発信も行っています。

3

独自の支援策

熊野町観光大使ふでりん

平成24年10月から、熊野町の観光大使に任命され、町内外に向けて熊野町の行事や史跡、施設など幅広い広報活動を行い、筆文化の情報発信を行っているゆるキャラ®。

筆の里工房に所蔵されている、仿古本朝名人用筆 乾 坤の中で、最も大きく華やかに製作された嵯峨天皇が使用したとされる弘仁御筆がモデルになっています。

情報発信のツールとして、FacebookとLINEによる情報発信を行っています。

全国に数多くいるゆるキャラ®の中で、数少ない伝統的工芸品を模したキャラクターで、筆や日本の伝統工芸のイベントや広島を代表するようなイベントなどから多く出演依頼を受けています。



ふでりん



ひろしま菓子博

町長からのメッセージ



熊野町長 三村 裕史

熊野町は、広島県西部に位置し、広島市、呉市、東広島市のほぼ中央にある高原盆地で、江戸時代に伝えられた毛筆製造技術により、180年余りの歴史をもつ熊野筆の製造を産業の中心に「筆の都」として知られています。

毎年「秋分の日」に約5万人の人出でにぎわう「筆まつり」の開催をはじめとし、より多くの人に楽しんでいただけるイベントの開催や、筆にまつわるものを収集・展示している「筆の里工房」で年間を通じた様々な企画展を行い、筆文化のすばらしさを発信しています。

教育面では、町の独自施策として、小学校1・2年生に書道科を設け、書写の力だけでなく、心を落ち着かせ、精神を集中させるとともに伝統文化を学ぶ機会としています。

また、平成23年度から、広島駅や東京都銀座にある広島県ブランドショップ「TAU」へ出店し、より多くの人に「熊野筆」の高い品質を実感していただけるよう、様々な情報発信を行っています。

その他、春分の日を「筆の日」とする条例を定め、筆文化を伝える取り組みを行うなど、これからも様々な町の施策を通じて、筆づくりの伝統と技術の継承を図ってまいりたいと考えています。